

全専攻系共通カリキュラム科目

「宇宙と栄養・医学概論」講義

演題：有人宇宙活動

講師：京都大学学際融合教育研究推進センター
宇宙総合学研究ユニット

特定教授 土井 隆雄 先生

日時：2019年7月3日（水）16：30～18：00

場所：藤井節郎記念医科学センター 1階ホール

土井先生は、1997年、スペースシャトル「コロンビア号」に搭乗し、日本人として初めての船外活動を行い、さらに2008年には、スペースシャトル「エンデバー号」に搭乗。ロボットアームを操作し、日本初の有人宇宙施設「きぼう」日本実験棟船内保管室を国際宇宙ステーションに取り付けました。また、2009年から2016年にかけて、国連宇宙部で国連宇宙応用専門官として宇宙科学技術の啓蒙普及活動に取り組み、2016年4月より京都大学宇宙総合学研究ユニット特定教授に就任。2002年と2007年には超新星を発見されました。

今回は以下の内容でご講義いただきます。

これまで30年以上に渡る日本の有人宇宙活動の歴史を宇宙飛行士の活躍を通して解説する。1985年から2007年までの日本の有人宇宙活動第1期では、個々の宇宙ミッションにおいてそれまで日本が持っていなかった新しい有人宇宙科学技術の獲得をめざした。日本の有人宇宙活動第2期は、2008年、国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」の建設とともに始まった。私（土井）の宇宙ミッション：STS-87やSTS-123でのフライト経験・船外活動経験を通して、宇宙空間での生活（衣食住）や日本の宇宙実験（植物実験、タンパク結晶実験、流体物理実験）などの解説を行う。有人宇宙活動によって、私たちは何をめざし、どこに行こうとしているのだろうか。

本講義は、大学院医科学教育部、栄養生命科学教育部、口腔科学教育部の大学院特別講義を兼ねています。

多くの先生方、大学院生、学部学生、興味をお持ちのすべての方々のご来聴を歓迎致します。

連絡先：生体栄養学分野 二川 健（内線：9248）